

	大分大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学部（第1年次:370 第3年次:10） 大学院工学研究科（M:135 D:8）
沿 革	昭和24（1949）年 新制大分大学設置 昭和47（1972）年 工学部設置 昭和54（1979）年 大学院工学研究科修士課程設置 平成7（1995）年 大学院工学研究科修士課程を博士前期課程に改組、博士後期課程を設置
設置目的等	<p>昭和24年、学校教育法第52条の規定により、学術の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的として、大分大学が設置された。</p> <p>昭和47年、広く工学に関する知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用能力を啓発展開させることを目的として、工学部が設置された。</p> <p>大分・鶴崎地区が新産業都市に指定されたことを受け、県が農林水産県に加えて工業立県、技術立県へと変換する過程で、これを側面的に支え指針を与える工業技術の研究機関などを担うことが期待された。</p> <p>昭和54年、近年急速に発展する科学技術の領域では、専門の細分化と共に相互関連分野の知識が強く要求される。これらの科学技術を基盤とした我国の工業技術の飛躍的進歩に伴い、広い視野に立った高度の専門知識を持つ工学者の養成が強く求められ、かかる社会的要請に対処する目的で工学研究科（修士課程）が設置された。</p> <p>平成3年に大学審議会は「大学教育の改善について」答申を行い、大学設置基準の大綱化のため教育体制の大変革が求められたことを受け、学部の再編、一部学科の拡充改組を行った。</p> <p>平成7年、工学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的として、工学研究科修士課程が博士前期課程に改組されるとともに、博士後期課程が設置された。</p>

強みや特色、
社会的な役割

大分大学においては、質の高い特色ある教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材の育成、世界に通用する科学技術の創造並びに地域への貢献に取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。

- 自らの課題を探究するための高い学修意欲と国際性及び柔軟な思考力を有する人材を育成するという教育理念のもと、ゆるぎない基礎学力と専門知識を備えるとともに高い倫理観を有する高度な技術者等の育成の役割を充実するとともに、技術改革や新たな考え方、社会での新たな価値の創出につながる新規分野の開拓や理論の構築を先導し、実社会で活躍することができるイノベーション博士人材を育成する役割を果たす。
- 実践的教育によるIT技術者リーダーシップ養成プログラムや地域との強い連携に基づく建築技術者養成などの特色ある教育を進めてきた実績を生かし、国際基準に合致した教育改革により、グローバル化に対応した人材を育成するとともに、地域の課題を俯瞰的な視点で捉え、整理・分析・解決することができる人材を育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。
- 統計科学など科学技術の基盤をなす基礎研究から、ヒト型スーパー抗体酵素の開発に成功した生命化学分野（医工連携）、ナノ炭素材料を医療に応用した材料化学分野（医工連携）や産官学一体となった共同研究体制のもとで顕著な成果をあげている電磁力応用技術分野などの優れた応用研究まで、幅広い工学の諸分野の研究を推進する。
- 産業界のニーズに応えた電磁応用機器開発拠点としての取組や地域防災・減災力向上のための取組、東九州メディカルバレー構想などの医工連携の推進、県内一次産業との連携及び支援、県内自治体の各種委員会への参画など、これまでの地域貢献の実績を生かし、大分県をはじめとする周辺地域の発展に貢献する。
- LSI分野をはじめとする地域企業における人材育成への貢献の実績を生かし、県内自治体や産業界などと連携して地域社会のニーズに対応した専門知識を体系的に習得できる講座や授業の充実を図り、社会人の学び直しを推進する。